

そうこう／朝晩の冷え込みがさらに増し、北国や山里では霜が降りはじめるところ。露が霜に変わり、だんだんと冬が近づいてくる。

# らしらく

自分らしく、  
粋なくらし

CLOSE UP

## スポーツで 越える さまざまな垣根



CLOSE UP 01

広島県エスキーテニス連盟

テニス・卓球・バドミントン3つのスポーツの要素が詰まった広島生まれのスポーツ



CLOSE UP 02

いちだい地域共創プロジェクト  
広島市立大学・比治山学区社会福祉協議会  
大学と地域が協働し、社会の課題に取り組む



CLOSE UP 03

一般社団法人広島県ボッチャ協会

垣根を越えて楽しめるスポーツ ボッチャで  
広島を盛り上げる

連載

- ▶らしらくレポート 広島には、身近にトップアスリートがいる!!夢と潤いのある「スポーツ王国ひろしま」の実現へ
- ▶らしらくコラム 骨から若返るSMILEエクササイズ® ▶ようこそ!公民館へ～東区内公民館～
- ▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶Hm助成支援団体のご紹介 ▶情報の森 ▶プラザ通信



# テニス・卓球・バドミントン3つのスポーツの要素が詰まった広島生まれのスポーツ

シングルスプレーの様子

CLOSE UP

## スポーツで越えるさまざまな垣根

今年はWBCで日本が優勝したことをはじめ、さまざまなスポーツが注目されました。今回は、広島生まれのスポーツの普及に尽力したり、スポーツを通して、地域の課題解決や障害者の理解を進め、全ての人が暮らしやすい社会を目指し活動している団体を紹介します。

### 広島県エスキーテニス連盟

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100071483396297>



#### 戦後の広島から誕生。またたく間に人気に

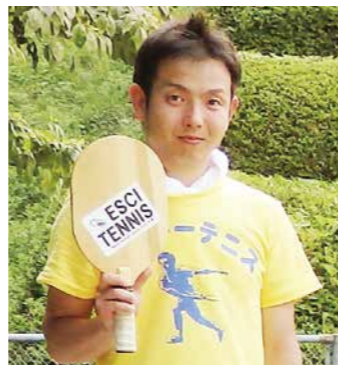
「スポーツを通して平和を。そして子どもたちに元気を与えたい」との願いを込めて、昭和23年に広島で生まれたのが、エスキーテニスです。「発明家気質を持っていた曾祖父の宇野本信が、テニス、卓球、バドミントンのそれぞれの要素を取り入れ、当時広島に

創設が提唱されていた大学院の名称「教育科学文化研究所 (Education Science and Culture Institute)」の頭文字「ESCI」を取って名付けました」と広島県エスキーテニス連盟事務局の宇野本翼さん。

戦後間もない時期、焼け残った板切れを持って、手作りのボールを打ち合っただけで遊んでいた子どもの姿からヒントを得て生まれたエスキーテニス。娯楽がまだ少なかった創成期は、十分なスポーツ用具もなかった時代。わずかなスペースとわずかな費用で、手軽に楽しめるエスキーテニスは、職場や学校で昼休みに楽しむ人が増えてまたたく間に普及。昭和27年には、広島平和大通りに10面のコートが設置（現在は広島市東区牛田新町の東区スポーツセンター横へ移設）されるほど人



▲ 平和大通りのコートでプレーする様子（昭和40年代）



▲ 宇野本翼さん



▲ 東区スポーツセンター横のコートでプレーする様子

気が高まりました。大会参加者数のピークは30年ほど前。社会人のみならず、広島県内の各大学でもサークル活動に励む大学生が増えました。誕生から75年経った現在も多くの人々に楽しまれ、全国10県に競技組織が設立され、競技人口は約2,000人、毎年全国大会も開催されています。

#### 奥深い戦術がプレーヤーを魅了する

「簡単そうに見えて、実は戦術は奥深く、プレーすればするほど夢中になります」と語るのは、現在広島市内で活動する団体のひとつ「安東エスキーテニスクラブ」の代表者の高羽優さん。高羽さんは愛知県出身、大学進学で広島に来て、エスキーテニスと出会い約10年近く夢中になっているそうです。毎週月曜日夜の練習は、学生はもちろん60代までおよそ40人のメンバーが、それぞれの都合の良いタイミングで参加し、楽しんでいるそうです。

「コロナ禍では、大学のサークル活動が中止になり、競技人口の減少、練習不足によるレベルの低下など今後への課題も浮き彫りになりました。しかし、戦後の広島から生まれたエスキーテニスは平和の象徴ではないか。未来を担う子どもたちに平和学習の一つの題材としてエスキーテニスを知ってもらおうのも、普及の一環ではないだろうか。そう考えるようになりました」と宇野本さん。今後は、その平和学習を通してエスキーテニスの普及も考えているそうです。

平和だからこそ楽しめるスポーツ。広島生まれのエスキーテニスをもっと大勢に知られ普及することは、今後の平和につながっていくのだと思います。

※エスキーテニスをしてみたいと思った方は、まずは連盟の方へお問い合わせください。

広島県エスキーテニス連盟 t@esci.co.jp



▲ エスキーテニスの用具

- テニスコートの約1/8のサイズ8m×4mコート。
- ラケットはグリップを含め38cm（木製で卓球のラケットより少し大きい）
- ボールはバドミントンのシャトルのように、羽根がついた直径4cmのスポンジボール。
- シングルスとダブルスがある。

## contents

### 特集

#### 01 スポーツで越えるさまざまな垣根

▶ 広島県エスキーテニス連盟



ダブルスプレーの様子

▶ いちだい地域共創プロジェクト  
広島市立大学・比治山学区社会福祉協議会



いきいきシステム  
実践の様子

▶ 一般社団法人広島県ポッチャ協会



イベントでポッチャを  
楽しむ参加者たち

#### 05 らしっくレポート ひろ記者が行く

▶ 広島には、身近にトップアスリートがいる!!  
夢と潤いのある「スポーツ王国ひろしま」の実現へ

#### らしっくコラム

▶ 骨から若返るSMILEエクササイズ\*  
広島大学 教育学部 准教授  
黒坂 志穂

#### 06 ようこそ! 公民館へ

▶ 東区内公民館

#### 07 人材バンク 名人 宝人 達人

▶ アフェット 井場 昭子さん 中岡 文子さん 花岡 直子さん  
▶ メディアカウンセラー 岡野 耕兵さん

#### 09 Hm助成支援団体のご紹介

▶ 公益財団法人ひろしま美術館  
▶ みささ日本語交流ひろば にじいろ  
▶ 早稲田学区社会福祉協議会

#### 11 情報の森

#### 15 プラザ通信

# 大学と地域が協働し、社会の課題に取り組む

## いちだいで地域共創プロジェクト 広島市立大学・比治山学区社会福祉協議会

### コロナ禍でも健康体操で交流したい

令和4年から広島市立大学の教職員や学生が、地域の関係者等と協働して、地域社会が直面する課題の解決に取り組むことで、広島広域都市圏及びその周辺地域の地域活性化と持続的発展に貢献することを目的として始まった「いちだいで地域共創プロジェクト」。比治山学区社会福祉協議会は令和4年度に採択された団体のひとつです。

比治山学区社会福祉協議会が応募したテーマは「コロナ禍でも健康体操で交流したい」です。「コロナ禍で感染拡大防止のために、外出自粛が叫ばれるようになるまでは集会所に集まって、広島市から貸し出された『いきいき百歳体操』のDVDをみんなで見ながら体操をしていました。感染防止のために対面での活動に支障が生じましたが、コロナ禍でも健康を維持し交流できるようにしたい、と思いました」と比治山学区社会福祉協議会の山口厚司会長。プロジェクトに採択され、情報科学研究科の岩根典之准教授とのマッチングが成立しました。



▲ 後列左から、広島市立大学山本彩さん、段原地域包括支援センター長谷川義徳さん、竹下八重さん、広島市立大学勢良寛さん。前列左から、山口厚司会長、岩根典之准教授、中田徹也副会長。

も、実際に使いこなせるのはほんの一握り。将来的な目標は、高齢者一人ひとりが、自分のスマートフォンを使ってオンラインで配信される健康体操を見ながら、健康づくりを行えるようになることです。そのためには、例えば学生が高齢者に寄り添ってスマートフォンの使い方を教える、といった環境ができればとも思います」と比治山学区社会福祉協議会副会長の中田徹也さん。

広島市立大学のプロジェクトサポートは3年が限度で、令和6年が最終年度になる予定です。「大学の使命として、地域貢献は必須です。学生が地域に向いての活動は難しい面もありますが、ネットワーク構築などの技術的な面でのサポートは問題なく進め



▲ オンライン体操体験会の様子

られます。ネットワークを使って地域の情報を定期的に配信するシステムが出来れば、先進的な事例としても注目を集めることが出来ると思います」と岩根准教授。

先進技術を活用し、楽しく持続可能な活動の環境整備は、高齢化が進む多くの地域にとって、参考となるのではないのでしょうか。異なる立場でありながら、一つの目標に向けて取り組む大学、地域の協働作業に大きな可能性を感じました。

※いちだいで地域共創プロジェクトの問い合わせ先：広島市立大学 社会連携センター TEL082-830-1542



▲ オンラインを活用した講座の様子

# 垣根を越えて楽しめるスポーツ ボッチャで広島を盛り上げる

## 一般社団法人広島県ボッチャ協会

<https://www.hiroshima-boccia.com/>



### 足りないところは互いに補い合い、助け合いの社会を目指す

令和2年8月に設立した一般社団法人広島県ボッチャ協会。年齢・性別・国籍・障害といった垣根を超えて、誰もがフラットに楽しめるボッチャは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤か青の持ち球を投げたり転がしたりして、いかに近づけるかを競うスポーツで、ヨーロッパで考案されました。パラリンピック正式種目にもなっており、前回のパラリンピックでは日本人の金メダリストも誕生。国も推奨するパラスポーツの一種目となっています。

広島県ボッチャ協会では、「ボッチャはいろんな垣根を越えて人と人を繋ぐ架け橋になる」と考え、毎月の体験会やイベント、エキシビジョンなどでボッチャを広める活動を精力的に行っています。会長を務める松川友和さんは、全国を飛び回る多忙な日々の中、突然発症したパニック障害で価値観が一転した経験があり、生き方を見つめ直し、これまで理解できなかった「障害」を知っていくうちに、「自分でも何か役に立てることがあるのでは」と心身障害者センターを訪れました。そこでボッチャ日本代表選手古満渉さんに出会ったときの感動は今でもはっきり覚えているそう。脊髄性筋萎縮症という障害、電動車いす生活の環境でありながら、競技者としていきいきとプレーしていた姿に「障害者は弱者じゃない。かわいそうだと思うから向き合えない。共に助け合い、楽しんでいくことで弱みをプラスに転換できるはず」と確信したといいます。

### 同じフィールドで楽しむそこには人と人との触れ合いだけが存在する

ボッチャ体験会は理学療法士やボランティアもサポート。参加者がいかにストレスのない状態で楽しめるかを考え、意思の疎通を大切にしています。また、専門学校の学生たちが参加者の車いすに興味を持ち、話しかけるなど同世代の貴重な交流の場にもなっていると。ボッチャが大好きだという参加者の保護者は「娘のような脳性麻痺の人には、自分の身体のクセとか特徴とか、どうやったら身体の動きが上手く出せるかと、自分の身体を知るきっかけにもなっている。よりスムーズに競技を楽しむため、足を動かさないように留めてほしい、など自分の意見も



▲ 第2回ボッチャ広島カップの様子 (令和5年9月10日広島県立総合体育館)

はっきり言いながら楽しんでいる」とボッチャに出会えた喜びを話します。

「彼らが投じる一投には、多くの人の思いが詰まっている。それは、応援したい、共に楽しみたいというシンプルで美しい思い。そこに障壁はなく、人と人との触れ合いだけが存在している」と話す松川さん。「もし障害をマイナスだと思ふなら、その弱みをプラスに転換して力を発揮できるようサポートしたい。今後もボッチャを通して、誰もが共存でき、足りないところは互いに補い合える、助け合いの社会を目指している」と力強く話す姿はパワーに満ち溢れていました。

※体験会は予約不要で誰でも参加できます。開催日時など詳しい内容はInstagramをご覧ください。  
Hiroshima\_boccia



HIROSHIMA\_BOCCIA



▲ 毎月開催される体験会の様子